

啓成がくゆう会 第6回【歴史講座】

と き： 令和6年9月5日(木)
午後1時30分～午後3時
(内、ご講演：午後1時40分～2時50分 予定)
と ころ： 啓成公民館 2階 集会室

「遺跡発掘から読み解く啓成地区の歴史」

講 師 米子市埋蔵文化財センター 館長
下 高 瑞 哉 氏

《講師様よりメッセージ》

受講生のお住まいになっている地面の1.5m下には、弥生時代から連綿と続く歴史が眠っていることをご理解いただくと幸いです。

《講座のテーマ》

米工、啓成小などの工事に先立つ発掘調査がありました。みなさん、啓成地区の「博労町遺跡」をご存知でしょうか。実は、弥生時代～近代にかけての重要な発見がありました。勝田山からの昔の風景はどうだったのでしょうか？啓成地区や米子市のむかしについて学びましょう。

※「博労町遺跡」は米子市域の海浜砂丘域において確認された古墳時代前期～奈良・平安時代を中心とした大規模な集落遺跡である。弥生時代終末期の砂丘停滞期により安定した砂丘上に集落が形成され始める。集落は古墳時代前期には最盛期を迎え、布掘り掘建柱建物を中心とする拠点的な集落の様相を見せる。

また、米子の原点である半生郷に相当すると思われる奈良・平安時代の役所に関連する遺構や遺物も発見され、このあたりが古代米子の中心地と思われる。

◎ご講演で「ふれあいの里に古墳があった」お話の詳細資料は、下記の錦町第一遺跡URLからダウンロードできます。(1996年3月米子市教育文化事業団)

錦町第一遺跡(米子市錦町1丁目139-1番地に位置:米子市ふれあいの里)

発掘調査資料 <https://sitereports.nabunken.go.jp/13889>

博労町遺跡

2011年① <https://sitereports.nabunken.go.jp/13769>

2011年② <https://sitereports.nabunken.go.jp/13976>

2022年 <https://sitereports.nabunken.go.jp/122541>

米子市啓成公民館創立五十周年記念誌(令和4年3月発行)8頁啓成地区の歴史に「米子で人の営みが始まったのは、今から6千年前の縄文時代中期と言われています。当時の啓成地区は美保湾岸流によって形成された海浜砂丘地の一画に立地し…」と【錦町第一遺跡】【博労町遺跡】に触れておりますが、啓成がくゆう会 歴史講座にて、直接発掘に関わっておられた米子市埋蔵文化財センター館長の下高氏から詳しくご講演いただきました。

受講者アンケートでは、「啓成地区の歴史を楽しく聞かせていただき、とても素晴らしかった」「すごい広大な畑の跡に驚きました。土器など遺物を間近に見られて興味深く面白かった」「博労町付近が米子の発祥地だったとは…」「ロマン溢れる地域に住んでよかった」「子どもを含め、もっと大勢の人に知っていただきたい」「大切な地域！大切に育てていきたい！」など、とても興味深く楽しい講座となり、「もっと聞きたい」「2～3回と継続して聞きたい」との声も多数ありました。錦町のふれあいの里に古墳や玉づくりの場所があった話、博労町遺跡からは世界初のX字型勾玉の遺物発掘の話などなど…みなさん目を輝かせていました。また、まだ発掘が進んでいない「角盤町遺跡」もあるようでした。

お話は尽きません。啓成公民館祭展示がありますので、楽しみにされてください(´▽´)。

調査のまとめ (以下、ご講演資料より)

- 1・古墳時代前期を中心とする海浜砂丘域の拠点集落
- 2・古代(8世紀後半～9世紀)には官衙的(役所的)色彩の強い施設、港湾関係の施設。
- 3・12世紀以降、大規模な畠地に転換、有力支配層の存在
- 4・中世に突然遺構廃絶、生活の痕跡途絶える。日本海沿岸の大規模な気候変動⇒歴史の大きな転換点を垣間見れる。
- 5・近世末に井戸、耕作の痕跡。

博労町遺跡は米子の砂丘域の遺跡の変遷を如実に表す遺跡である。→遺構の時期を詳細に検討し、砂丘の形成時期と集落の変遷を明らかにすることが重要。



博労町(ばくろうまち)遺跡(いせき)の調査成果

博労町遺跡は、米子駅の北、約1.3kmの市街地にあり、砂州(さす)の上に営まれた弥生(やよい)時代の終わりごろから古墳(こふん)時代(約1800年～17000年前)、奈良(なら)時代(約1300年前)、平安(へいあん)時代(約1200年～1100年前)、中世(ちゆうせい)(鎌倉(かまくら)時代800年前)、江戸(えど)時代の終わりごろから明治(めいじ)時代(約150年前)、の多くの時代の遺跡、遺物が発見されています。

これまでの調査では、竪穴(たてあな)住居(じゅうきょ)跡(あと)、掘(ほっ)立柱(たてはしら)建物(たてもの)跡(あと)、大溝(おおみぞ)、畠(はたけ)跡(あと)、井戸(いど)などの遺構や弥生土器、土師器(はじき)、須恵器(すえき)、勾玉(まがたま)、鏡(かがみ)、陶磁器(とうじき)、金属製品などの遺物が確認されてきました。

・第1次調査 2007年(平成19年)10月～2009年(平成21年)2月 県立米子工業高校校舎改築工事

・第2次調査 2020年(令和2年)9月～2021年(令和3年)5月 市立啓成小学校校舎等改築工事

・第3次調査 2023年(令和5年)6月～2023年(令和5年)10月 東こども園新園舎新築工事

調査の成果としては、古墳時代の建物跡は、台地上で発見されることが多いですが、ここ砂丘低地でも発見されたことにより、海岸近くでも集落が形成されていたことがわかりました。また、古代の役所に関連する遺物も発見されており、これまで謎とされてきた「伯耆国会見郡の12の郷のうちの一つである半生(はにゅう)郷(ごう)に関する施設の可能性が考えられます。

さらに、中世の鎌倉時代には、このあたり全体に畠が広がり、土壌分析の結果、イネ、ムギ、ソバ、アズキなどが作られていたと推定されます。なお、この畠は、環境の激変により短期間で飛砂により埋まり、放棄されたと考えられます。

これまでの調査により、博労町遺跡は、米子市街地の成り立ちや歴史、海浜砂丘地の遺跡や土地利用、環境の激変の影響などを考えていく上で、とても重要な遺跡であると考えられます。